

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	施設園芸総論	担当	県農業技術職員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無
-----	--------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農
学期	前期 <input checked="" type="radio"/> 後期	時間数(単位数)	時間(1単位)
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="radio"/> 実験 <input type="radio"/> 実習 <input type="radio"/> 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可)	
1.	花き栽培に関する基礎 (種類と分類、生理生態、開花調節技術、繁殖)
2.	野菜栽培に関する基礎 (野菜の栽培用語、生理生態、養液栽培技術、環境こだわり農産物の概要等)

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	花きの種類・品種と名前(自然分類、園芸的分類、品種と品種の分類)・花きの成長・開花と環境(花きの一生と成長・開花、開花調節の技術)
第2回(4時間)	花きの繁殖方法(種子繁殖、栄養繁殖の方法)・花きの品質と品質保持(切り花、鉢ものの品質と品質保持技術)
第3回(4時間)	野菜の生育と品質(種子発芽～花芽分化まで)、環境こだわり農産物の概要等
第4回(4時間)	野菜栽培と環境管理(土壌管理と施肥、養液栽培技術)

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入	
農文協 草花栽培の基礎、自作プリント(ノート形式のプリント)	農文協:野菜栽培の基礎、環境こだわり農産物のあらし、自作プリント等

到達目標	
○	花きの種類と分類方法を理解できる
○	草花きの開花特性に応じた開花調節技術を理解できる。
○	花きの品質評価の方法と品質保持技術を理解できる。
○	野菜栽培の生理・生態が理解できる。○施設栽培の土壌管理と施肥、養液栽培管理が理解できる。○滋賀県の環境こだわり農産物が理解できる。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))	
○記述テスト	○出欠状況
○提出物の有無と内容	○授業態度

評価基準	
<p>本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。</p>	

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	バラ栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農			
学期	前期 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)			
授業形態(○記入)	講義	演習	実験	実習	見学	

科目内容(教育研修計画より転記も可)

1. バラの生産動向
2. バラの栽培基礎・品種、経営、仕立て方法とその特徴、施肥法、病害虫防除

授業内容(4時間を1回分とした内容)

第1回(4時間)	講義：①バラの原産地、属科および系譜。②バラの生理生態と生育環境。③全国および滋賀県のバラ栽培の歴史と現状。④バラ経営の特徴。
第2回(4時間)	見学：バラ専作農家の見学。
第3回(4時間)	講義：①バラの生育特性と経営への導入。②バラの品種と作型。③バラの栽培管理技術。
第4回(4時間)	講義：バラの病害虫と生理障害 実習：農大ほ場において実際の植物体を用いての診断ポイント説明

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入

新版『草花栽培の基礎』(農文協)
自作資料(バラの原産地、属科、系譜・バラ栽培の歴史と現状・バラ経営の特徴・生育特性と経営への導入・品種と作型・栽培管理技術・病害虫と生理障害について)

到達目標

バラの生理生態や栽培品種の系譜、営利栽培の歴史と現状に関する知識を身につけるとともに、バラ栽培に関する基礎的な技術を理解する。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))

○記述テスト ○出欠状況 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス様式

はチェックボックス

科目名	カーネーション栽培	区分	<input type="checkbox"/> 教養 <input type="checkbox"/> 共通 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻	担当者	県農業技術職員
-----	-----------	----	--	-----	---------

対象	<input checked="" type="checkbox"/> 養成科 (<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年) <input type="checkbox"/> 就農科	単位数	1	時間数	16	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期
----	--	-----	---	-----	----	--

●科目内容（教育研修計画より転記も可）

- 1.カーネーションの栽培基礎、品種、経営、流通
- 2.カーネーションの病虫害防除
- 3.カーネーションの生産動向

●科目のねらい

- 1.講義内で与えたテーマについて、正誤に関わらず分析して発表させる。
- 2.市場等のカーネーション出荷調査データを分析する能力、まとめる能力を身に着けさせる。
- 3.個々の発表の機会を与えることにより、プレゼンテーション能力を向上させる。
- 4.視察研修において人の話を聞き、まとめる能力を身に着ける。

●各回の内容（講義/演習/実習/見学の別） 計画（実績）

第1回	講義（カーネーションの栽培の基本と流通について）
第2回	講義（農大ほ場での現地講義）
第3回	見学（県内カーネーション生産者の視察研修）
第4回	演習（カーネーション病虫害のレポート作成と発表）

●使用テキスト、資料等

- ・関連書籍（技術体系などから抜粋）や試験研究報告、経営ハンドブックなどを参考にして講義資料とする。
- ・「夏庭園芸草花の病気と害虫」米山伸吾、木村裕（農文協）

●評価方法（何で評価するか、各項目の比率等）

- 期末試験
- レポート（与えたテーマについて情報を収集・分析し、考察する能力を評価する）
- その他（講義内での発言や受講姿勢）

●その他（履修にあたっての留意点等）

講義や演習を通じて自身の考え方の枠を広げ、プロジェクト活動のヒントを見出してもらえることを期待する。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	キク栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農			
学期	前期 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)			
授業形態(○記入)	講義	演習	実験	実習	見学	

科目内容(教育研修計画より転記も可)	
キクの生産動向、キクの栽培基礎・品種、経営、開花調節 ※キクの分類と生理生態を理解して、その開花特性と電照を活用した開花調整技術の仕組みを理解する。	

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	キクの生理生態と開花調節、栽培基礎等について
第2回(4時間)	キクの病虫害防除について
第3回(4時間)	輪ギク生産者のほ場を視察し、経営や栽培技術を学ぶ
第4回(4時間)	まとめ
第5回(4時間)	
第6回(4時間)	
第7回(4時間)	
第8回(4時間)	

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入
○「草花栽培の基礎」農文協 ○「農業技術体系花卉編」農文協 ○「経営ハンドブック」滋賀県

到達目標
○キクの性状や適応性等についての基礎的な知識が身についている。 ○キクの生理生態について基礎的な知識が身についている。 ○キクの栽培についての基礎的な知識や栽培技術が身についている。 ○キクの産地形成や経営について理解ができています。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	鉢花・花苗栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農			
学期	前期 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)			
授業形態	講義 演習 実験	実習	見学			

科目内容(教育研修計画より転記も可)	
1.	鉢花・花苗の生産動向(生産の歴史と現状)と現地視察
2.	鉢花の基礎知識:品目、経営、用土、栄養生理、施肥
3.	花苗の基礎知識:各品目の栽培技術

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	演習(鉢花・花苗の流通について分析)
第2回(4時間)	演習(鉢花・花苗栽培の基本についてレポート作成と発表)
第3回(4時間)	見学(県内鉢花生産者の視察研修、豊郷町内を予定)
第4回(4時間)	講義(農大ほ場での現地講義)

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入	
・	農業技術体系(農文協)
・	経営ハンドブック(滋賀県)
・	市場年報(大阪鶴見花き地方卸売市場発行)
・	夏庭園芸草花の病気と害虫(米山伸吾・木村裕、農文協)

到達目標	
1.	講義内で与えたテーマについて、正誤に関わらず分析して発表させる。
2.	市場等の鉢花・花苗の出荷調査データを分析する能力、まとめる能力を身に着けさせる。
3.	個々の発表の機会を与えることにより、プレゼンテーション能力を向上させる。
4.	視察研修では人の話を聞き、まとめる能力を身に着ける。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))	
○	出欠状況
○	授業態度
○	記述テスト
○	提出物の有無と内容

評価基準	
<p>本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。</p>	

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	草花栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	1年 <input checked="" type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農		
学期	<input checked="" type="radio"/> 前期 後期	時間数(単位数)	時間(1単位)		
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="radio"/> 実験	<input type="radio"/> 実習	<input checked="" type="radio"/> 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可)	
1. 1・2年草の定義と分類	2. 播種方法
3. 主要品目の生理生態と栽培技術(トルコギキョウ、アスター、ヒマワリ、ケイトウ、ストック、キンギョソウ、スターチス等)	

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	講義/主要草花の栽培の特徴、ヒマワリの生理生態と栽培方法
第2回(4時間)	講義/スターチス・トルコギキョウの生理生態と栽培方法、切り花の品質保持
第3回(4時間)	現地研修/東近江市黄和田町(リンドウ栽培について)
第4回(4時間)	講義/ストック、キンギョソウの生理生態と栽培方法、草花栽培の特徴について
第5回(4時間)	
第6回(4時間)	
第7回(4時間)	
第8回(4時間)	

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入
農文協 草花栽培の基礎、自作プリント(ノート形式のプリント)

到達目標
○ 主な草花の特性と栽培方法についての知識を身につけている。
○ 草花栽培の特徴について理解できている。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
○ 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
○ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	洋ラン・観葉植物栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	1年 <input checked="" type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農		
学期	<input checked="" type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期	時間数(単位数)	時間(1単位)		
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義 <input type="radio"/> 演習 <input type="radio"/> 実験 <input type="radio"/> 実習 <input type="radio"/> 見学				

科目内容(教育研修計画より転記も可)	
1. 洋ラン・観葉植物の生産動向(生産の歴史と現状)、視察 2. 洋ランの基礎知識:品目、経営、各品目の栽培技術 3. 観葉植物の基礎知識:品目、経営、各品目の栽培技術	

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	洋ランの概要と栽培技術の基礎知識
第2回(4時間)	観葉植物の概要と栽培技術の基礎知識
第3回(4時間)	観葉植物栽培の現地見学(東近江市今崎町)
第4回(4時間)	復習、試験対策
第5回(4時間)	
第6回(4時間)	
第7回(4時間)	
第8回(4時間)	

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入
○草花栽培の基礎(農学基礎セミナー)、○農業技術体系花卉編12

到達目標
○洋ラン、観葉植物の性状や適応性等についての基礎的な知識が身についている。
○洋ラン、観葉植物の栽培についての基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
○記述テスト ○出欠状況 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	土地利用型園芸 I	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	-----------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数 (単位数)	16時間 (1単位)
授業形態 (○記入)	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容 (教育研修計画より転記も可)

- ・ 水田作野菜、花きの作付体系 (土地利用型作物と組み合わせた土地利用体系)
- ・ 水田作露地野菜、花きや加工業務用途向け栽培を導入する農業経営の特性
- ・ 排水対策の重要性とその手法
- ・ キャベツ、はくさい、ブロッコリー、たまねぎ、小菊に関する各論 (性状、作型、栽培管理、病害虫管理、機械化)

授業内容 (4時間を1回分とした内容)

第1回 (4時間)	(講義)水田で栽培できる野菜の種類、水田での栽培における留意点、露地水田野菜を導入する農業経営とは
第2回 (4時間)	(講義)排水対策、作付体系 (土地利用体系、ほ場のローテーション)、加工・業務用途向け栽培の特徴について
第3回 (4時間)	(講義)各品目の花芽分化特性や育苗技術について、キャベツ栽培について (見学)土地利用型大規模経営体における収穫機を用いたキャベツ収穫作業
第4回 (4時間)	(講義)ブロッコリー・ハクサイ・タマネギ・ <u>小菊</u> の栽培について、各品目の病害虫雑草防除について、作付計画を立てるのに必要な計算について

使用教科書 (テキスト)

自作資料 (農水省HP、ヤンマーHP、クボタHP等を参考に作成) を使用。

到達目標

土地利用型経営に水田野菜や水田花きを導入する意味を考える。
 消費者・流通・生産者それぞれの立場から露地水田野菜、花き各品目のイメージをとらえ、経営形態や経営戦略を考える。
 家計消費向け栽培と加工・業務用向け栽培の違いを理解する。
 各品目の生理生態に基づき、具体的な栽培方法を理解する。
 排水対策の必要性を理解し、排水対策技術の基本を身に着ける。

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠))

○記述テスト ○出欠状況

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	園芸施設	担当	大学教員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生		1年 2年 就農		
学期	前期 後期	時間数 (単位数)		32時間 (2単位)		
授業形態 (○記入)	講義	演習	実験	実習	見学	

科目内容 (教育研修計画より転記も可)	
<p>1. 園芸用施設の種類と構造</p> <p>(1) 施設園芸の特徴 (2) 温室の種類と構造</p> <p>(3) 被覆資材、保温資材の種類と特性</p> <p>2. 温室の環境と制御</p> <p>(1) 温室の光環境と制御 (2) 温室の温度環境と制御</p> <p>(3) 温室の湿度環境と制御 (4) 温室の炭酸ガス濃度の特徴と制御</p> <p>(5) 複合環境制御 (6) 養液栽培の種類と特徴</p>	

授業内容 (4時間を1回分とした内容)	
第1回 (4時間)	施設園芸の特徴, 日本の施設園芸の状況
第2回 (4時間)	温室の種類と構造
第3回 (4時間)	被覆資材の種類と特徴
第4回 (4時間)	温室の光環境と制御, 温室の温度環境と制御 (1)
第5回 (4時間)	温室の温度環境と制御 (2)
第6回 (4時間)	温室の湿度環境と制御, 温室の炭酸ガス濃度の特徴と制御
第7回 (4時間)	換気の種類と特徴, 複合環境制御
第8回 (4時間)	養液栽培の種類と特徴
使用教科書 (テキスト) 書籍名、自作資料の内容を記入	
講義中にプリント試料を適宜配布	

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 園芸施設の種類と特徴を理解する. ・ 温室内の環境の特徴を理解する. ・ 温室内環境の制御方法を理解する.

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠))
講義内で行う確認小テスト (13回), 期末テスト

評価基準
<p>講義内で行う確認小テスト (13回, 合計50点) と期末テスト (50点) で評価する (合計100点)。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。</p>

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	少量土壌培地耕システム	担当	県農業技術職員	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
-----	-------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻	対象学生	1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 就農
学期	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	時間数(単位数)	時間(1単位)
授業形態(○記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可) ・本県独自の養液栽培技術である少量土壌培地耕栽培の内容(構造・栽培品目・コスト等)について理解する。 ・先進農家の取り組み事例の見学。
--

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	少量土壌培地耕システムの概要、栽培品目(野菜)
第2回(4時間)	少量土壌培地耕システムの概要、栽培品目(花)
第3回(4時間)	少量土壌培地耕(システム)作成。
第4回(4時間)	少量土壌培地耕栽培の現地見学(野菜・花)
第5回(4時間)	
第6回(4時間)	
第7回(4時間)	
第8回(4時間)	

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入 ・自作資料および農技センター資料および農業技術体系等。
--

到達目標 ・本県独自の養液栽培技術である少量土壌培地耕栽培の構造、栽培品目および栽培方法について理解できる。 ・実際にシステムを組み立てることができる。
--

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠)) <input type="checkbox"/> 記述テスト <input type="checkbox"/> 出欠状況
--

評価基準 本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。
--

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	植物病理	担当	製薬会社顧問	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 <input checked="" type="radio"/> 共通 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農			
学期	<input checked="" type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期	時間数(単位数)	24時間(2単位)			
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input checked="" type="radio"/> 演習	実験	実習	見学	

科目内容(教育研修計画より転記も可) 作物保護の重要性, 病気の基礎知識, 伝染方法, 病害の原因と診断, 病害の発生と環境条件, 作物保護の手段
--

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	作物保護の重要性・植物病理学とは
第2回(4時間)	植物病害の基礎知識－病原体各論(1)
第3回(4時間)	植物病害の基礎知識－病原体各論(2)
第4回(4時間)	植物病害の基礎知識－感染と発病
第5回(4時間)	病害の伝染・病害の発生と環境条件
第6回(4時間)	病害の発生と環境条件・病害の診断
第7回(4時間)	作物保護の手段(1)
第8回(4時間)	作物保護の手段(2)

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入 ○ 毎回プリントを配付する。参考図書も講義の中で適宜紹介する。
--

到達目標 ○ 作物保護の重要性について理解することができる ○ 各種作物の病害をひきおこす病原体の分類上の位置, 生物学について理解することができる ○ 病害の伝染, 病害の発生と環境条件, 病害の診断について理解することができる ○ 作物保護のさまざまな手段について理解することができる
--

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠)) <input type="radio"/> 記述テスト <input type="radio"/> 出欠状況 <input type="radio"/> 提出物の有無と内容 <input type="radio"/> 授業態度
--

評価基準 本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。
--

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	応用昆虫	担当	県農業技術職員	実務経験 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 就農	
学期	前期 <input checked="" type="radio"/> 後期	時間数 (単位数)	時間 (1単位)	
授業形態 (○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義 <input checked="" type="radio"/> 演習	実験	実習	見学

科目内容 (教育研修計画より転記も可)
害虫の基礎知識、害虫の診断と発生予察

授業内容 (4時間を1回分とした内容)	
第1回 (4時間)	昆虫の起源と人類との係わり、昆虫の種の多様性と分類体系
第2回 (4時間)	基本的な害虫管理手法と総合的病害虫防除 (IPM) の概念
第3回 (4時間)	各種害虫防除法と殺虫剤抵抗性
第4回 (4時間)	主要な農業害虫の生態と生態を考慮した防除技術
第5回 (4時間)	
第6回 (4時間)	
第7回 (4時間)	
第8回 (4時間)	

使用教科書 (テキスト) 書籍名、自作資料の内容を記入
<ul style="list-style-type: none"> ・自作のプリント資料 (参考図書: 「植物防疫講座 (害虫・有害動物編)」 日本植物防疫協会、 「現代応用昆虫学」 朝倉書店 他 ・減農薬害虫防除DVD (農文協)

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ○日頃の農作業実習等で必要となる害虫や天敵等への知識を身につける。 ○DVDの映像や画像等の視覚的な学習を取り入れることで、害虫や天敵等をじっくり観察できる力を身につける。

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠))
<input type="radio"/> 記述テスト <input type="radio"/> 出欠状況 <input type="radio"/> 提出物の有無と内容 <input type="radio"/> 授業態度

評価基準
<p>本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。</p>

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	花き流通	担当	県農業技術職員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農			
学期	前期 <input checked="" type="radio"/> 後期	時間数(単位数)	時間(1単位)			
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input checked="" type="radio"/> 演習	実験	実習	見学	

科目内容(教育研修計画より転記も可)	
1. 花きの流通・販売・消費の現状 2. 品質保持技術、 3. 市場流通の仕組み 4. 花き直売の現状と課題	

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	全国の花き流通の現状
第2回(4時間)	花き卸売市場の現状(花き卸売市場見学)
第3回(4時間)	滋賀県の目指す花き流通
第4回(4時間)	新たなニーズを創出する商品提案
第5回(4時間)	
第6回(4時間)	
第7回(4時間)	
第8回(4時間)	

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入
花きの現状について H27.5 農林水産省

到達目標
全国および花き卸売市場の現状を理解することで、花のトレンドを意識した商品開発能力や、日持ちを重視した生産流通体制の整備の重要性を理解し、滋賀県花きの振興に向けた提案ができる

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
<input type="radio"/> 記述テスト <input type="radio"/> 出欠状況 <input type="radio"/> 提出物の有無と内容 <input type="radio"/> 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	花き経営	担当	県農業技術職員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農			
学期	前期 <input checked="" type="radio"/> 後期	時間数(単位数)	時間(1単位)			
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input checked="" type="radio"/> 演習	実験	実習	見学	

科目内容(教育研修計画より転記も可)	
1. 需要と生産①国内および本県の需要動向と産地の動向②花き生産の条件(自然的、経営的、生物的)③作物選択と栽培技術 2. 施設と費用①施設と整備②生産費③所要労力④収益性	

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	産地の定義、国内の花き産地、作型と栽培型、露地、施設栽培の特徴について
第2回(4時間)	鮮度保持技術、流通形態・販売戦略、マーケティング、家族経営と企業経営、商品化率と秀品率について
第3回(4時間)	資産・負債・資本、収益・費用の種類、主要品目経営ハンドブック、経営計画実践
第4回(4時間)	先進経営体の視察(先進農家の栽培、経営方針を学ぶ)

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入

到達目標

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
<input type="checkbox"/> 記述テスト <input type="checkbox"/> 出欠状況 <input type="checkbox"/> 提出物の有無と内容 <input type="checkbox"/> 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	フラワーデザインⅡ	担当	検定審査員	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻	対象学生	1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 就農	
学期	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)	
授業形態(○記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実験	<input type="checkbox"/> 実習
			<input type="checkbox"/> 見学	<input checked="" type="checkbox"/> 実技

科目内容(教育研修計画より転記も可)	
1. トラディショナルなアレンジメント 2. 季節のアレンジメント	
3. アレンジメントの応用	

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	トライアングュラーの制作
第2回(4時間)	パラレル・テーブルアレンジについて
第3回(4時間)	花束、シュトラウスの制作
第4回(4時間)	トライアングュラー、花束リースの制作
第5回(4時間)	
第6回(4時間)	
第7回(4時間)	
第8回(4時間)	

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入

到達目標
フラワーデザインⅠで学んだ内容をもとに、フラワーアレンジメントについての基本的な技術と知識を身につける。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
○フラワーアレンジメント実技テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。